

令和4年度 第77回夏休み良書推薦運動

読書感想文コンクール

主催
協賛
後援

岩手県良書推進協議会
岩手県学校生活協同組合
岩手県小学校長会
岩手県学校図書館協議会
岩手県PTA連合会

目次

- 一 祝辞
- 二 入賞者名簿
- 三 入賞者作品
- 四 審査を終えて
- 五 応募者名簿

表彰式次第

- 一 開式のことば
- 二 主催者あいさつ
- 三 賞状並びに記念品授与
- 四 審査報告
- 五 来賓祝辞
- 六 作品朗読
花巻市立大迫小学校 二年
松坂 優 凜
- 七 感想発表
盛岡市立土淵小学校 四年
金森 一 花
- 八 閉式のことば

審査員

- | | | |
|-------|----|----|
| 大石 | 善弘 | 先生 |
| 近藤 | 澄江 | 先生 |
| 畠山 | 明美 | 先生 |
| 藤村 | 由美 | 先生 |
| 田代 | 五月 | 先生 |
| 大測 | 奈実 | 先生 |
| 永井臣之介 | | 先生 |
| 杉浦美香子 | | 先生 |
| 谷藤 | 里佳 | 先生 |

一冊の本との出会い

岩手県小学校長会 会長 紺野好弘

夏休み良書推薦運動第七十七回読書感想文コンクールに入賞された皆さん、おめでとうございます。夏休み、皆さんが出会った本は、とても心に残る素晴らしい本だったのですね。本と出会って努力することの大切さを学んだこと、読む前の自分より少しだけ成長できたと感じたことは、かけがえのない一生の宝物です。

また、本との出会いにより表現された皆さんの読書感想文もまた、作品を読んだ多くの先生方が感心するほど素晴らしく、心に響くものばかりでした。たくさん本を読んでいる皆さんは、心が豊かに耕されており、本との出会いから学んだ様々なことを表現する力にも優れていました。何度も書き直しながら素晴らしい読書感想文を書きあげた皆さんに心から拍手を送ります。

ところで皆さんは、私たち人間はなぜ本を読むのか考えたことがありますか。分からない言葉を調べるとか、興味のあることを調べるといふように目的があつて本を読むこともありすが、多くの人は、特に理由はなく「本を読むのが好きだから読む」とか「読みたい本だから読んでみる」のではないかと思ひます。本を読むのは、どんな理由でも良いのです。理由なんてなくても良いのです。同じ作者の本でも、違うジャンルの本でも構ひません。何でも手に取っ

て読んでみましょう。そして、何気なく読んだ一冊の本の中に、自分の行動や考え方、生き方まで変えてしまうような本との出会いがあつたとしたら、それは素晴らしいことです。本の中には、そんなとてつもない力が秘められているものもあるのです。とてもすごいことだと思ひませんか。

今、コロナの影響で行きたい国に行けなかったり、会いたい人に出えなかつたりする状況が続いています。これは私たち人間にとつても悲しいことであり残念なことです。でもそんな思ひを少しでも解消してくれるのは読書です。本には、様々な人や国の話だけでなく、全国にひろがることも食堂を舞台にした、おいしい食べ物いっぱい、心もあつたかくなるお話、子どもたちのたくさんのためいきとその理由が登場するお話、地球から火星にやってきた五人の子どものお話など、人間の想像力が無限であるように、本も数えきれないほど無限に存在します。こうしている今も、たくさんの本が世の中に生み出されているのです。その中には、皆さんの心を豊かにするだけでなく、行動や考え方、生き方まで変えてくれるような本もきつとあります。そういう一冊の本との出会い、今からとてもワクワクしますね。

これからも様々な本に出会い、好奇心や驚き、勇気や感動、生きることの意味や喜びを深く心に刻みながら、心を磨き、成長していつてほしいと思ひます。

令和4年度 第77回

夏休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

「は図書名

〈最優秀賞〉

なこちゃんとうわたしのきもち

『よそんちの子』

盛岡市立高松小学校

一年 長瀬夕奈

わたしもがんばるよ

『ウサギのトリン』

花巻市立大迫小学校

二年 松坂優凜

クッキーがくれたしあわせ

『世界一まずいクッキーのひみつ』

盛岡市立好摩小学校

三年 久保心愛

ため息はためない息

『みんなのためいき図鑑』

盛岡市立土淵小学校

四年 金森一花

仲よく生きていくことの大切さ

『火星のライオン』

一戸町立奥中山小学校

五年 戸来圭佑

大きな翼にするために

『あしたへの翼』

宮古市立田老第一小学校

六年 吉水詩織

〈岩手県小学校長会長賞〉

やさしさどえがおの子どももしょくどう

『あおぞらこども食堂はじまります！』

盛岡市立永井小学校

二年 土田朝日

ためいきをつく意味

『みんなのためいき図鑑』

盛岡市立杜陵小学校

四年 佐々木杏

七不思議とリク

『七不思議神社』

宮古市立田老第一小学校

六年 山本謙志郎

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

モンスター・ホテルでおばけやしき

『モンスター・ホテルでおばけやしき』

盛岡市立河北小学校

二年 下川原蓮

みんなのためいき図鑑を読んで

『みんなのためいき図鑑』

盛岡市立向中野小学校

三年 伊藤遥香

「いいねー」を味方に

『いいねー』

盛岡市立土淵小学校

五年 吉田那乃葉

〈岩手県PTA連合会長賞〉

みんなそれぞれがったからだ 『みんなみんなすてきなからだ』

滝沢市立滝沢第二小学校 二年 中村 空煌

さよならのたからばこを読んで 『さよならのたからばこ』

花巻市立湯口小学校 四年 佐々木 結奏

町の「いいもの」であるために 『カンフー&チキン』

滝沢市立篠木小学校 六年 主浜 彩花

〈優秀賞〉

あしたのてんき 『あしたのてんきははれ？くもり？あめ？』

一関市立花泉小学校 一年 酒井 杏梨

がんばるってつらいけどたのしいよ 『ウサギのトリン』

盛岡市立厨川小学校 二年 谷藤 栞那

まほうのクッキーは 『世界一まずいクッキーのひみつ』

宮古市立山口小学校 三年 箱石 好南

ためいき図鑑からの気づき 『みんなのためいき図鑑』

盛岡市立城南小学校 四年 桐田 景護

目に見えるもの見えないもの 『七不思議神社』

釜石市立鶴住居小学校 五年 久慈 廣多

七不思議集めの旅 『七不思議神社』

久慈市立宇部小学校 六年 滝澤 啓光

〈入選〉

がんばりやのぐるりん 『くぬぎのもりのどきどきはつびようかい』

盛岡市立永井小学校 二年 奥野千雪

うれしい気もちになれるクッキー 『世界一まずいクッキーのひみつ』

一戸町立奥中山小学校 三年 猪又結月

「ためいき」つてなんだろう 『みんなのためいき図鑑』

盛岡市立津志田小学校 四年 坂崎陽香

中学生が介護する大変さ 『あしたへの翼』

宮古市立千徳小学校 五年 星野夏希

あしたへの翼 『あしたへの翼』

二戸市立御返地小学校 六年 田中柑菜

〈学校賞〉

宮古市立田老第一小学校

〈学級賞〉

宮古市立田老第一小学校 六年

〈佳作〉

くぬぎのもりのどきどきはつぴようかい

『くぬぎのもりのどきどきはつぴようかい』

北上市立鬼柳小学校 一年 阿部 友香

トリンとマラソン 『ウサギのトリン』

盛岡市立城南小学校 一年 桐田 瑛慈

すごいぞ、かぶと虫 『かぶとむしのぶんぶんちゃんうまれたよ!』

盛岡市立北厨川小学校 二年 櫻田 悠悟

サキちゃんはミャーコが大切なんだね 『おもちゃの国へようこそ』

平泉町立長島小学校 三年 千葉 愛美

『天国の犬ものがたり』を読んで 『天国の犬ものがたり』

滝沢市立滝沢小学校 四年 高橋 紗彩

『七不思議神社』を読んで 『七不思議神社』

滝沢市立滝沢小学校 五年 田野 愛佳

手を取り合うことの大切さ 『火星のライオン』

宮古市立田老第一小学校 六年 晴山 紗芳

全てを包む愛と理夢がした介護 『あしたへの翼』

宮古市立田老第一小学校 六年 大下 滯

なこちゃんとおたしのきもち

盛岡市立高松小学校 一年

ながせ ゆうな

わたしには、2さいのおとうとがいます。とてもかわいいです。わたしのことを「ねえね」といつてついでくるときは、いっしょにあそんであげたくなります。でも、ときどきわるいこともあります。このほんをよんで、なこちゃんとおなじようなきもちになることがあるなとおもいました。なこちゃんには、おとうとはいません。でも、おかあさんのともだちのこともあずかることになりました。そのこのなまえは、かなちゃんです。かなちゃんのおかあさんがしゅじゅつをすることになったので、なこちゃんはいえにきました。かなちゃんは、4さいです。だから、知らないひとたちとおかあさんとはなれてずっとおとまりをしてさびしいとおもいます。なこちゃんもさびしいきもちをわかっけてやさしくしようとしました。でも、なこちゃんがかなちゃんにえほんをよんでたのまれたとき「じぶんでよんでみなよ。」とらんぼうにいいかえしました。そのことでおかあさんやおにんちゃんにしかられました。わたしは、なこちゃんのことがかわいそうになりました。なこちゃんがいえでをしたときのきもちもわかります。きつ

と、なこちゃんのかぞくがかなちゃんばかりかまっつて、なこちゃんはさみしくなつたとおもいます。わたしもにたよくなことがあります。おとうとにわるぐちをいわれたことをおとうさんにいつたら、

「それくらいいいじゃん。」

といわれました。いつもわたしばかりちゅういされているようなきがして、おとうとがずるいとおもいました。でも、かなちゃんもおとうともちいさいから、わるいことがわかんないとおもいます。だから、ちいさいには、やさしくおしえようとおもいます。がまんしないで、おうちのひとにそうだんして、こころをあかるくしていききたいです。おとうともやさしくしていききたいです。

(図書名『よそんちの子』)

〈講評〉

「わたしもおなじようなきもちになることがあるなあ」と思ったり、気づいたりしたことを書き表したことに感心しました。主人公のなこちゃんの気持ちやゆうなさんにはよくわかったのですね。

『よそんちの子』を読んだことで、周りの人たちがなぜ、よその子や小さな子にやさしくしていると感じるのか考えることができよかつたと思います。工夫をして、心を明るくしていききたいという気持ち、忘れないでね。

わたしもがんばるよ

花巻市立大迫小学校 二年

松坂 ゆり

わたしは、音読がきらい。と切れと切れにしか読めない、しゆくだいの一回もしぶしぶ読む。じかんがかかって、いつもつらい。今より音読のれんしゅうをするなんて考えられない。考えたくもなかった。今年の夏休みはしゆくだいに音読がなくて、わたしの心は青空!!晴れだった。でも、先生に

「ゆりさんには夏休みに音読してほしいな。」

と言われて、一気に大雨、カミナリがおちた気もちになった。でも、今はちがう。今年の夏は音読をがんばって、また晴れの気もちになったよ。

この本を読んで、れんしゅうすることの大切さをトリンに、さい後まであきらめずにがんばることをポツキーに教えてもらった。

トリンはがんばりや。はやくはしれるようになるために、早おきをして校ていをはしった。まえのわたしなら、れんしゅうをしないで一いになりたい、トニーみたいにはじめから足がはやかったらなって考えてしまっただろうな。ポツキーはきらいなこともがんばる子。マラソンがにが手な

ポツキーは、はじめはいやな気もちだったけれど、あきらめないでたのしくはしるくふうをして、ビリでも自分のペースで前をむいてはしりきった。きっと、くるしかつたよね。ポツキーはすごいな。

わたしは、本は大すき。まいばん、ははに読んでもらうのがたのしみ。今は、本の中の会話をわたしが読む。まだ、じょうずには読めないけれど、なりきって読むのがすごくたのしい。ポツキーのように、だれかといっしょなら、気もちが雨になったとき、さいごまでたのしくやり切ることができると思う。音読がとくになれば、もっと本をすきになれるかな。つきは、わたしがはやおとうとに、読み聞かせをしてあげたいな。そう思うと、なんだかワクワクする。わたしの心は、今、きれいなほし空でかがやいているよ。

(図書名「ウサギのトリン」)

〈講評〉

歯切れのいい文章で、読んでいて、わくわくしました。自分の気持ちを天気にならべて表しているのが、とてもいいなと思いました。夏休みに苦手な音読の練習をすることになって、気持ちは大変、カミナリが落ちたようだったけれど、がんばって練習して、今は晴れのゆりさん。家族に読み聞かせをする日が来るのが楽しみです。

『ウサギのトリン』という本と出会えたのは、この夏の宝物かもしれませぬ。

クッキーがくれたしあわせ

盛岡市立好摩小学校 三年

久保心愛

「おいしいのまちがいじゃないの？」

私は、この本の題名を見た時にそう感じました。まずクッキーなんて食べたこともないし、聞いたこともないからです。しかし、本を読み進めていくにつれ「まずクッキー」にかくされたなぞがとけていきました。

この本の主人公は、小学三年生の女の子ミサトです。ある月曜日の朝、学校に行くときふしぎなうわさが広がっていました。そのうわさは、世界一まずクッキーのお店でクッキーを食べた人はしあわせになれるという内容でした。ミサトはどうしてもそのうわさが気になり、クッキー屋さんに足を運ぶのです。そのお店に入ると、すてきな人との出会いや物語がありました。

私は心に残っている場面が三つあります。

一つ目は、マジヨランさんの魔法が悲しいミサトを救ってくれた場面です。ミサトがお店に入った時、食べる人の気持ちによって味が変わるふしぎなクッキーを食べました。ミサトが食べるとまずかったです。まずく感じる人は、何か悲しさや苦しさを抱えている人。たしかに、学校で仲のいいアミちゃんが遊びをてきとうにとわっていたことでミサトはもやもやしていました。その苦しい気持ちをおうと、マジヨランさんはミサトが昔見て感動した「夕やけ」をもう一度魔法でさいげんしてくれました。美しいけしきを見て、苦しい気持ちからおだやかな気持ちに変化した場面は私も感動しました。

二つ目は、マジヨルカが魔女になった場面です。マジヨランさんのまほうで夕やけを見ていた時、一人ぼっちで悲しいトロヴィロスという竜巻がミサトを自分の友達にするためにさらおうとします。その時、魔女になりたくないと言っていたルカが魔法を使い、ミサトを助けたのです。ミサトだけではなく、一人ぼっちのトロヴィロスもぶんかいすることで仲間をふやし安心させたのです。マジヨルカの「人を助きたい」という気持ちが魔女になる決心につながったという場面がかつこよかったです。魔女になり一人ぼっちになる悲しさを知っているルカだからこそできた行動と決断だったと思います。

三つめは、ミサトがマジヨルカのあいぼうになる場面です。マジヨルカがあいぼうとしてミサトを選んだのは、二人の間にできた固い「友情」と「信頼」からだと思います。ミサトもその気持ちに応えたのは、ミサトにとつてもこれから先マジヨルカが必要だと感じたからだと思います。二人なら魔法を使い、また魔法がなくなると悲しいでいる人や困っている人をたくさん救ってくれるよいパートナーになりそうです。

クッキーが運んでくれたすてきな出会いや物語。うわさ通り、ミサトはしあわせになりました。いつか私も「世界一まずクッキーのお店」に行ってみたいです。

〈講評〉 (図書名「世界一まずクッキーのひみつ」)

「世界一まずクッキーのひみつ」という不思議な題名にひかれて、その謎を解き明かしながら読み進め、心に残っている場面を整理して感想文にまとめることができました。

心愛さんは、登場人物一人一人の気持ちに寄り添って読み、それぞれの優しさを感じ取っています。ミサトとマジヨルカの明るい未来を想像して、さわやかな気持ちで読み終えましたね。心愛さんも幸せな気持ちになることができた素敵なお話でした。

ため息はためない息

盛岡市立土淵小学校 四年

金森 一花

ため息は黒い。私にとって、ため息は悪いもので、つかない方がいいと思っていました。

主人公のたのちんの班は、ため息の図鑑を作ります。同じ班の小雪が教室に來られない加世堂さんを悪く言った時、私はひどい！と思いましたが。だから、小石川さんの「小雪ちゃんのこと、わるく思わんといてね」という言葉に、私は、何でだろう？と思いました。

でも、保健室登校している加世堂さんを、小雪がはげましてあげていた事、一生けん命すぎて心がおれてしまった事、いつまでたっても変化がない加世堂さんをいやになつてしまったかもしれないという事を知つて、小雪の気持ちもなんだか少し分かる気がしました。自分のやりたい事や考えを主ちようせずに、周りの意見をただ受け入れる加世堂さんを見ていたら、私もイラッとしたかもしれない。小雪が、「いまかわれなかつたら、一生かわれないよ」「一生保健室にいたらいよいよ」と言ってしまったのも、言い方はきついでけれど、加世堂さんに自分の意見を言つてほしい、教室に來てほしいからだと思います。

私は、小雪みたいに、自分の考えをはつきり言えると思つていました。でも、前に学級会の出し物の話し合いで、手品を試してみたかったけれど、みんながいやだったらどうしよう、と思つて言えなかつたことを思い出しました。言つておけば良かったのか、このままで良かったのか。かっとうして、二つの思いが、バチンとぶつかるたびに、心の中で深いため息をついていました。だから、加世堂さん

みたいなのに、自分の意見があつても、なかなか言えない人もいるという事に気がつきました。

たのちんが、小雪のくやしい気持ちに気づいてあげて、加世堂さんには気持ちを表現する場所を作つてあげるてい案をした時には、周りをよく見ていてすごいなと思いました。

私は、学級の「何でも相談室」という係をしています。聞いてほしい事がある人は、それを書いて、教室のポストに入れます。私はその返事を書いていきます。この前、返事をわたしに行つた時、「前のお返事も持つているんだよ。」と見せてくれて、気持ちがどいたみたいでうれしかったです。きっと、小雪やみんなの思いが加世堂さんにとどいて心を動かしたから、教室に來られたのだと思います。私は、「分かち合いポスト」になりたいです。だれかがため息をついていたら、「どうしたの？」「だいじょうぶ？」と話を聞いてあげたいです。ため息を受け取つて、気持ちが軽くなる言葉を配達してあげたいです。

ため息つて雲みたい。灰色もあれば、白やオレンジの時もあります。良い悪いはなく、モヤモヤした気持ちを落ち着かせる深ききゅう。私も「ためいきこぞう」と上手につきあつていきます。ため息はためない。ため息をついて、心の整理整とんをしながら、親や友達にもたくさん話を聞いてもらいたいです。

(図書名『みんなのためいき図鑑』)

〈講評〉

登場人物の気持ちを想像しながら、人物への理解を深め、感想をもつことができました。自分の経験と重ね合わせ、「自分だったら。」と考えることで深まった感想です。

書き出しの「黒いため息」が最後には灰色や白、オレンジに変わったことから、一花さんが心を働かせて読み進めていったことが伝わってきます。書き出しとまとめがつながる文章の組み立ても見事です。一花さんの「分かち合いポスト」も活躍できるといいですね。

仲よく生きていくことの大切さ

一戸町立奥中山小学校 五年

戸 来 圭 佑

この本は、二〇九一年に、地球から火星に入植したアメリカの十一人とネコのお話です。ウイルスによる、なぞの病気が大人たちの中で流行し、五人の子どもたちが同じ火星にいるフランスからの入植者たちに助けを求めに行き、アメリカの大人たちが助けられるというお話です。

ぼくが一番心に残ったのは、主人公のベルが、たった一人でフランスからの入植地まで助けを求めに行くところです。行く途中のトンネルは暗いし、きつと一人で行くのはこわかっただろうなと思いました。フランスの入植地に行けるのは、ベルだけだったので、自分でなんとかするしかないと思ったところが、勇かんだと思いました。

ベルがこんなになんばらなくてはいけなかったのは、指揮官のサイのかんちがいのおかげでした。サイは、リサがローバーの中で置き去りにされて死んだと、事実ではないことにいかりと悲しみを感じ、心を閉ざしてしまつたのです。それまでは、みんな他の国とのやりとりができていて、ハロウィーンパーティーを楽しんだり、農作物の研究を共同で行つたりしてくらしていました。しかし、サイは他国を信頼できなくなり、二度とこんな目に合わないようになり、他国との接しよくを断つことに決めたのです。しかし、ぼくは、他国との接しよくをしなくなるのはいけなと思います。理由は、他の国や人と接しよくせず自分だけで生きていくことは、とても難しいことだと思ふからです。他の国との接しよくを絶つたことで、ベル

たちの生活は変わっていきました。物資が二年に一度しかこないし、技術も低く、くらしにくくなりました。この本の中では、地球でアメリカとフランスが敵対国なので、フランスとは接しよくしないようにと、アメリカの地球司令部に言われていたのです。

ぼくは、読み進めていくうちに、なぞの感染症と、現在のコロナウイルスとが重なっているように感じました。今、国境こえて、他の国々とワクチンを共同開発したり、ユニセフなどが発展途上国の支援を行つたりしながら、互いに団結し、助け合っています。しかし、本の中では、なぞの感染症が大人の間で流行したとき、他国との関係を断つてしまっているのが、大変な思いをしたのです。

現在のロシアとウクライナの戦争も、本の中のアメリカとフランスが敵対しているところとにているように思います。戦争では、建物がこわされたり、多くの人が亡くなつたりしています。本の中でも、アメリカとフランスが敵対したせいで、病気を治す技術が上手く進まず、国民は危険な目に合いました。

ライオンが群れをはなれると長く生きられないように、人間も一人では生きていけないのです。戦争をせず、どの国も協力し、仲良く生きていくことが大切だと強く思いました。

(図書名「火星のライオン」)

〈講 評〉

「あらずじ」「心に残つたこと」「考えの根拠」「実例」「まとめ」という構成が圭佑さんの主張を伝えるのに大変効果的で、お手本となるような、見習いたい組み立て方です。

人間はなぜ一人だけでは生きていけないのか、という問題を、現在実際に地球上で起きていることと比較しながら、国同士の付き合い方にまで広げて考えることができました。

暗いニュースの多い最近の世の中ですが、世界中の人が協力し合つて生きていくことの大切さを考えなければいけませんね。

大きな翼にするために

宮古市立田老第一小学校 六年

吉水 詩織

「うわああ、うわああ。」

理夢のおばあちゃんが、初めておむつに大便をしてしまったときのことだ。その時、おばあちゃんは両手を上げて変な声を出したという。その後の「情けない」と何度も言うおばあちゃんの言葉から、その時は我に返っている状態だということが分かる。

老人介護というのは本当に大変だ。私の曾祖母は骨折が原因で、介護が必要な状態にある。でも我が家には父も母もいるし、祖父母に姉も一緒に暮らしているので、誰か一人だけがお世話をしているわけではない。しかし、理夢はたった一人でおばあちゃんの介護をしている。しかも、認知症が進んでしまった状態のおばあちゃんの介護だ。

人は歳をとると赤ちゃんにかえっていく、そんな言葉をどこかで聞いたことがある。確かにそうかもしれない。時の流れとともに、人や物事を少しずつ忘れていき、ついには排泄まで誰かに世話をしてもらわなければできなくなる。オムツを使わなければならぬところも、赤ちゃんのようにと言え。でも、赤ちゃんのそれと比べたら、その世話をする人の労力は計り知れない。介助する側が持ち上げなければならぬ体の重さ、排泄物の量、それに加えてあの臭い。今の私には想像するだけで目が回る。なのに、理夢は何とか一人でこなしてしまう。すごい、理夢ってすごい。思わず私はつぶやいた。私だつたら、ただおろおろしたまま何もできない気がする。

そんな気丈な理夢も泣いていた場面があった。それは、近所のお

ばさん達にごみの出し方を注意された時だ。でも、涙の訳は注意されたことじゃない。これまで一人で精一杯やってきたことだったが、自分のゴミ出しの方法がまずくて周りの人に迷惑をかけていたこと、そしておばあちゃんの行為が近所の人たちに迷惑をかけていたということ。今、二人しかない理夢の家族全員が、この地域の迷惑者だったという思いの涙だったに違いない。このときの理夢の心は、自分の存在さえ意味が無いと思っていたようにも思う。

しかし、これほどまでに理夢の心に降った豪雨ともいえる状況は、思わぬ晴れ間を呼んだ。それは、別居していた母と姉が帰ってきたことだ。近所の人達はゴミ出しについて理夢に話しながら実は理夢の家庭の状況について確かめていたということ、そして理夢の母に連絡してくれていたということだった。なんだか私の心にも雲間から日の光が見えた気がした瞬間だった。

私にも介護しなければならぬ家族がいる。今のところは家族みんなでその仕事を分け合っている。でも、今後、どんなふうにならそれが変化していくかは予想ができない。理夢は近所の人達をきつかけに翼を持つことができた。私は家族と協力しながら、一家としての大きな翼をつけてより良い明日へと羽ばたきたい。

(図書名「あしたへの翼」)

〈講評〉

あらすじのみの段落を作るのではなく、どの段落にもあらすじを組み入れ、関連させながら自分の思いを表す書き方が、とてもよい効果を生んでいます。話の内容が無理なく分かり、自分と主人公の境遇の比較も自然でありながら、具体的に書くことができました。

全体的に、主人公の立場や気持ちに寄り添いながら読み進めたことが伝わってきます。この本を通して考えたことと本の題名をうまく結び付けた感想文の題名の付け方も大変上手です。

やさしさとえがおの子どもしよくどう

盛岡市立永井小学校 二年

土田朝日

一人でごはんをたべるって、どんな気もちなんだろう。ぼくは一人でごはんをたべたことはないけれど、ほいく園のときになかなかむかえがこないときは、早くかえりたいなど思っていました。でも、まわりに友だちや先生がいたから、さびしくはありませんでした。もし一人だったら：と考えると、ぜったいさびしいです。この本を読んで、一人でごはんをたべている子どもが多いと知って、かわいそうだなあと思いました。

この本に出てくるハルさんは、ニコちゃんのように、一人でごはんをたべている子どもたちのために「あおぞらこどもしよくどう」をはじめました。そして、ハルさんのりょうりのおてつだいをしてくれる人や、ざいりょうをていきょうしてくれる人もいて、そこはたくさんの人たちのやさしい気もちがあつまるすてきなばしょになりました。

「子どもしよくどう」という名前は、テレビのニュースで聞いたことがあります。そのときは、子どもたちにむりようでごはんをたべさせてあげるところということを知りました。でも、それだけではなく、おとなも子どももみ

んながあつまって、しゅくだいをしたり、おしゃべりしたりもできるところになっていると、この本を読んではじめて知りました。ぼくも、近じよのおじいさんおばあさんにこえをかけてもらったり、図書かんではたらいっている人と話をしたり、いろんな年の人と話をすることがあります。おしゃべりをしていると、いろんなことが分かってあたりしいはっ見があります。話すとなかよくなれるのもうれしいです。子どもしよくどうにあつまる人は、きつとこういうたのしい気もちなんだろうなと思います。

ぼくのすんでいるもりおかにも、二十い上の子どもしよくどうがありました。きつと、やさしさとえがおがあふれていると思います。

（図書名『あおぞらこども食堂はじまります！』）

〈講評〉

最近、よく話題にのぼる「こども食堂」。でも、名前は知っていても、実際どんなところなのかわからない……。朝日さんは、この本を通して、こども食堂について色々知ることができたんですね。朝日さんが考えたように、食堂だけでなく、地域の人や出かけた先で色々な世代の人と触れ合うことで、一人である時には得られない、笑顔や「楽しい気持ち」が広がっていると、素敵だと思います。

ためいきをつく意味

盛岡市立杜陵小学校 四年

佐々木 杏

「ためいき」はつかれた時やいやな事があるとつくものだと思っていた。表紙の絵を見ると、カラフルな色づかいと、たのちんの「ためいき」が上向きに出ていることがふしぎだった。「図鑑」というものは、絵や写真と説明文が書いてあるのに、この本はパラパラとめくってみると文章がならんでいた。色々な事が予想と違ってさらに中身が気になり、次は次はと読み進んだ。

私も「ためいき」をつく。どんな時にため息をつくかというところ、小学校一年生の終わる頃から流行りだしたコロナについてのことが多い。楽しみにしていた行事も、友達と遊ぶ事も、それまで当たり前だと思っていた事がだめになった。その度に「はあ」とためいきをつけていた。ためいきの理由は自分ではどうしようもできないからだ。

登場人物の中で私はどちらかといえば保に似ていると思う。私も強い意見の人がいたらはつきり伝えられない。その点、たのちんはすごいと思う。まとまらない班の意見に苦ろうしながらもそれぞれの気持ちをしつかり聞いて気持ちよくみとる。「悩んでいるのは自分だけじゃない」と周りの困っていることに気付いて、「何とかしたい」と頑張っている。そんな親友思いのたのちんだからこそ、ためいき小僧が現れて助けてくれたのかもしれないと思った。「ためいき小僧」がたとえ自分の分身だとしても、だれでも自分の気持ち聞いてくれる相手がいたらうれししい安心する。でも実際は「ためいき小僧」はいない。みんな自分の中でどうすればいいのかなや

みなながらも解決していくのだろうと思う。

私は読む前と変わった事がある。「ためいき」は決して悪いことばかりではないということ。ピンチな時は「何とかしたい」という気持ちや前向きな気持ちがあるということ、その他にもうれしい時、幸せと感じる時にも「ほっ」というためいきだということを知った。一つ一つのため息は、知らず知らずのうちに気持ちを整理していたのかもしれない。ゆつくりと息をはけば大きな深いこきゅうができる。その一しゅんで気持ちが変わるかもしれない。イライラを落ち着かせたり、悲しい気持ちをまぎらわせたり、幸せを何十倍にもしたり気持ちに小さな区切りをつけることができる。「ためいき」は自分の分身であると同時に、自分の心のおくにあるメッセージで、それを大切にしていけばよいと思った。「大丈夫？どうしたの？」主人公のように、誰かがため息をつけていたら私は声をかけてあげたい。そしたら周りにいる人が温かい気持ちになってよりよく、楽しい気持ちですぐすくことができると思う。

〔図書名「みんなのためいき図鑑」〕

〈講評〉

題名の「ためいき」について、杏さん自身がどんな時にためいきをついているのか思い起こし、他のためいきの種類や、その意味に興味をもって読むことができました。初めて知ったためいきのことが次々と書かれていて、新たな発見が楽しかったのだらうと思われまます。また、ためいきと、どう付き合っていけばよいのかもしっかりと考えることができましたね。主人公から学んだ温かい気持ちも大切にしていけるとよいですね。

七不思議とリク

宮古市立田老第一小学校 六年

山本 謙志郎

たった一日で、町のいろんなところにある七不思議を探せなんて、無理じゃないのかな。ほくはリクがやろうとしたことに、そんな思いをもった。なぜなら、リクはこの七節町に引っこしてきたばかりで、町のことはあまり分らない。なのに、その七不思議とやらは、町のいたる場所に点在している。町のことをよく分らないリクが制限時間までに、その七つを集めきるなんて不可能だと思っただ。でも、リクは七つとも集めきってしまった。不可能を可能にしてしまった秘密はどこにあるのだろう。ほくはもう一度、リクの七不思議探しに関わってくれた人や出来事をたどり直してみた。

一番それに貢献したと思うのはタクミだろう。何と言っても、七不思議の存在を教えた張本人であるし、地元出身であるための知識もそこそこあったことがリクの興味をそそるものになったと思っ。しかも、タクミは七不思議伝説について、それなりにくわしく知っている。絵馬をおさめるのは旧暦の七月七日でなければ効き目がないこと、しかもそれは今日だということ。実はタクミも七不思議伝説については興味があつて、自分も願いを叶えてみたいと思つていたと思う。ほくもその場にいたとしたら、日が暮れたつてチャレンジするような気がする。なぜって、何でも願いが叶うつていうんだから。

二つ目は、リクの真剣さだと思っ。リクが七不思議伝説を実行してみようと思つたのは、自分のためだったと言える。リクの願いは、ばあちゃんに危害を加えたひつたり犯が捕まること。一見、ばあ

ちゃんのためと思う願いだ。しかし、リクの心の中では「この事件さえなければこんな田舎に来ることはなかった。犯人が捕まれば、ほくは前に住んでいた場所に戻れる」と思つていた。でも、いざ七不思議探しをしてみると、その話の内容がとて面白く、心に刺さるものばかりだった。真剣な様子で聞くリクを見て、七不思議を話す人達はもつと手伝つてあげたいという思いをもつただろう。また、その心はほとんどん広がり、狛犬や地藏様、河童たちまで力を貸してくれたように思う。そして、たくさんの人と関わり、不思議な力にも支えられることで、七節町の良さに触れながら自分も人を支えられるようになりたいという思いに変わったんだと思つた。

ほくも今のこの生活があるのは、色々な人達が関わつてくれていてのおかげだと改めて思つた。でも、ほく自身、その人たちに対して真つ直ぐな態度で接することができているだろうか。大分、不安が残る。小学校生活最後のあと半分、もう少し頑張れそうな気がする。それが本当に実行できるなら、岩手に残る伝説の鬼や河童、座敷童たちが、ほくの必死を応援し、後押ししてくれるんじゃないか、そして自分も周りの人を幸せにできると思っ。

〔図書名「七不思議神社」〕

〈講評〉

さまざまな言葉が使われており、語彙の豊かさを感じます。伝えたいこと、書きたいことによつて文末を書き分け、文体にリズムのよさも生まれています。

このお話の主題につながる「不可能を可能にした秘密」を考えると、う構成の仕方が大変上手です。主人公の成長の様子から、自分自身の生活も多くの人に支えられていること、不可能と思えることにも真剣に取り組むことの大切さまで読み深めることができました。

モンスター・ホテルでおばけやしき

盛岡市立河北小学校 二年

下川原 れん

「モンスターホテルでおばけやしき」という本の正しい名前から、ぼくはストーリーをそうぞうしてみた。さいしょは、おばけがおばけをおどろかせる話かと思った。さいしょは、

じっさいに読んでみると、ぼくのそうぞうとはちがった。ジェットコースターがすきでゆうえんちに通っていたおなつさんというおばけが、ゆうえんちがなくなってしまうことを知って、なかまのおばけたちとおばけやしきをこわくしようと計かくする話だった。

さいしょ、人間たちはぜんぜんこわがってくれなかった。そこで、みんなで会ぎをして「おばけはこわいぞプロジェクト」を立ち上げるようになった。そして、さいごには人間をこわがらせることができた。本もののおばけがおばけになるのだから、それはこわかっただろう。けつきよくゆうえんちはおしまいになってしまったけれど、さいごにおばけやしきをもり上げることができてよかったと思う。

この本を読んでぼくが思ったことは、出てくる人たちは、みんなやさしいということだ。まずは、おなつさん。もうなくなってしまうゆうえんちのおばけやしきを、さいごに

もり上げようとしてくれたからだ。つぎに、おばけたち。おなつさんの思いをうけ入れて、きょう力してくれたからだ。じぶんたちにちよくせつかんけいがなくても力をかそうとしてくれるところが、やさしいと思う。さいごに、ゆうえんちのおじさん。本もののおばけがいること知っていたけれど、気づかないふりをして、ぎやくにかんしゃをしていたからだ。

この本は、お母さんにすすめられたから読んでみたけれど、ぼくのようにじょうにおもしろかった。しらべてみると、モンスターホテルシリーズは、なんさつかあるらしい。せつかくだから、ほかのお話も読んでみようと思った。そして、おもしろくてやさしいおばけたちにまた会いたいと思う。

〔図書名「モンスター・ホテルでおばけやしき」

〈講評〉

題名から想像したのとは違った一冊。でも、この本を楽しんで読んでいたのが伝わってきました。個性的なおばけたちや遊園地のおじさんなど登場人物たちの優しさを感取ったことを、整理して書いているところが素晴らしいと思います。

「モンスターホテル」はシリーズ化されていますし、「新モンスターホテル」も出版されているので、ぜひ読んで、おもしろくやさしいおばけたちに会いにいらしてください。

みんなのためいき図鑑を読んで

盛岡市立向中野小学校 三年

伊藤 遥 香

わたしは、つかれた時やざんねんなことがあった時に、ためいきが出ます。そのためいきがどういう図鑑になるのかなとふしぎに思い、読んでみることにしました。

学校で、はんごとに「オリジナル図鑑」を作ることになると、たのちんのはんは、どんな図鑑を作るのかなか決まりません。はんのメンバーのゆらは、ほけん室登校をしていて、教室での話し合いには、さんかできないから、たのちんは、ほうこくと相談をするためにほけん室へ行き、ゆらと話をしていると、ゆらのかいた絵がためいきこぞうとなつて動き出し、たのちんの助けにもなつていき、さいごにはためいき図鑑をはんのみんなでかんせいさせることができる物語です。

わたしがいちばん心にのこつたのは、ゆらが教室に来たところからです。いつもほけん室で、すごしているゆらが、たのちんの話聞いて自分から教室に来ることができて、ゆうきを出してすごいなと思つたからです。わたしは学校にゆよしの友だちがいます。一しょにべん強するのも、休み時間に遊ぶのも、そうじをするのも、友だちが一しょだからとても楽しいです。にがてな社会の問題もわからないとヒントを教えてくださいたりするので、がんばる気もちがわいてきます。ゆらも教室には、こまつた時に助けてくれるたのちんがいます。ゆらも教室には、こまつた時に助けてくれるたのちんがいます。ゆらが教室に来ると、すぐに声をかけてあげたり、みんなで分たんとする、インタビューも大へんにならないように考えてあげたり、と

てもやさしいなと思いました。

前に、はんのそうじリーダーを決める時に、わたし以外にもリーダーをやりたい子がいて、二人ともゆずれなくて、こまつたことがあります。やりたい気もちが強くてゆずれ合えませんでした。その時、友だちが、

「多数決をして、なれなかつた人は次のそうじリーダーをやればいいでしょう。」

と言つてくれました。それを聞いて、ゆずりたくなくてイライラしていた気もちがかるくなりました。わたしたちの気もちを考えてくれたんだと伝わつてきて、うれしかったです。わたしはいつも、みんなの意見を聞くことはできるけど、意見をまとめるのがむずかしいと感じています。けれどまとめようとしなくても、みんなの気もちを考えてみるとかいいけつできる方ほうが見つかると知りました。わたしは、この本を読んで思ひやることの大切さを学びました。全ぶがでなくても、できることをやつたりできそうなことをまわりの人が考えてあげたりすると、むずかしかったこともできると分かりました。学校でははんでやる活動が多いのでわたしは、たのちんのはんのようにみんなで思ひやりながらいるいるなことにとり組んでいきたいです。

（図書名「みんなのためいき図鑑」）

〈講評〉

ためいき図鑑を班の仲間と作る中で、登場人物がどんな気持ちになつていたのか、じっくり想像して読むことができました。遥香さんのよいところは、自分の経験を思い出し、その時の気持ちを人物と重ねるなど、とても丁寧に読んでいるところです。

結びには、登場人物がためいき図鑑を作り上げる中で教えてくれた思いやりへの感想がまとめられています。これからの学校生活に生かしていけるでしょう。

「いいねー」を味方に

盛岡市立土淵小学校 五年

吉田 那乃葉

このお話は身の回りがある「いいねー」を見つけるお話です。転んでもそこから見える世界が「いいねー」小関節が生まれつき変形してきずあとが残っても、真っ白いサポーターに絵をかけるのが「いいねー」いやなことや苦手なことでも、よく考えると「いいねー」を見つけることができます。

わたしは、身の回りの「いいねー」をさがしながら読み進めるうちに、心に残ったお話がいくつもありました。

まず、「ヒーローっていいねー」です。ボクが一番仲良しのカズマを目指してがんばる場面です。カズマが打ったファールボールを速く走れなくても「ネコに負けたくない。ネコに負けたところをカズマに見せたくない。」という思いでこうかいに走りまわりました。ギリギリのところボクがネコよりも先にボールを取ることができるとき、わたしはホッとしました。「カズマみたいに速く走りたい。」という気持ちが強かったから、ネコよりも先にボールを取ることができたと思います。このことからわたしは、誰かを目標にしたり目指すことが大事だと思いました。

それから、「さびしいって、いいねー」です。アタシとわたしは似ています。わたしも他に四人の家族がいます。父は朝から夜まで仕事、母は午後の仕事、一番上の兄は高校受験、二番目の兄は中学生になったばかりで忙しいので、わたしは下校後に家でひとり過ごすことが多いです。わたしもひとりだとさみしいです。ひとりぼっちのアタシは、マンシヨンの外階段のネコとおしゃべりができるか

ら「いいねー」わたしは、アタシの考えに「いいねー」と思いました。でも、わたしはネコを飼っていないし、近所にもネコがいません。なので、ぬいぐるみを使ってさみしくない生活にしたいです。

他にも、「アタシは歯ぬけがいやだ。」が心に残りました。わたしも歯ぬけがいやでした。前歯がぬけた時が一番いやでした。おバカみたいに見えるからです。でも、アタシはおじいちゃんと小さな枝つきの赤いつばきを歯ぬけのすき間にさして、「いいねー」と思います。おじいちゃんと一緒に笑顔になったからです。わたしは、こんなところにも「いいねー」があるのだなと思いました。

わたしは、この本を読んで作者が言いたかったことは、身の回りがある「いいねー」を見つけて気持ちよくなったことは、身の回りごとだと思いました。今までのわたしは、「いいねー」を見つけていることがありませんでした。しかしこの本は、いやなことがあっても少し見方を変えると、苦手なことが好きになったりすることを教えてくれました。わたしもいやなときほど「いいねー」を見つけて、毎日気分アゲアゲで生活したいです。

（図書名「いいねー」）

〈講評〉

この本を読むと、転ぶことも、歯がぬけることも、一人ぼっちのさびしささえも、「いいねー」と思えてくるのです。どんなことも見方を変えると楽しいという作者のメッセージを、確実に受け止めて読むことができました。身の回りの「いいねー」を探すとという視点をもった読み方もいいですね。那乃葉さんが特に心に残った「いいねー」を三つ挙げ、自分ならどのような感じるか、素直な言葉で表現できていることも素晴らしいです。

みんなそれぞれがったからだ

滝沢市立滝沢第二小学校 二年

中村 空 る

すてきなからだって、どんな体なんだろう。ぼくは、プールやおんせんでいろいろな人の体を見たことがあります。おなかに大きなきずがある人、はだの色が黒い人、体は小学生のように小さいのに、こえがひくく毛ぶかい人も見かけたことがあります。ぼくにとって、すてきな体は、きん肉がたく山ついていて、はやくはしることが出来る体だと思っていました。かっこいい体だけがすてきなことではないと、読みおえた後に思いました。

おなかに大きなきずがのこっているお母さんと、男の子がたのしそうに海であそんでいるページを見て、すぐにお母さんに教えました。なぜ、おなかに大きなきずがついているのかわかりません。でも、いたくてつらいけいけんをしたんだとそうぞうすると、心がいたくなります。まるで、ぼくのお母さんを見ているようです。

ぼくをうむ前にお母さんは、大きなびょう気をしました。赤ちゃんができるばしょを手にゆつし、今でもおなかに大きなきずあとのこっています。赤ちゃんをうめない体になるかもしれないくらい、こわいびょう気だったそうです。

きせきてきにぼくが生まれた後は、おなかのきずを見てもしあわせだといつも話してくれれます。お母さんは、きずあとをうけいれることができていいるから、まわりの人とえがおでたのしくすごすことができていいると思ひます。びょう気とたたかたあかして、きずがのこっている体はすてきです。

一人一人がちがった体で、それぞれにものがりがあります。ぼくのお母さんには、びょう気でつらい思ひをしてほしくないです。でも、自分とまわりの人がやさしい心でうけとめることで、みんながえがおになることを、この本とお母さんが教えてくれました。「みんなみんなすてきなからだ。」この合言は、大人になつてもつたえつづけたいです。

〔図書名〕『みんなみんなすてきなからだ』

〈講評〉

「すてきな体は、きん肉がたく山ついていて、はやくはしることが出来るからだだと思ひていました」と空るさんは書いています。でも、本を読んだ後は「かっこいい体だけがすてきなことではない」と思ひたとも。

お腹にきずあとがある空るさんのお母さんは、病氣と闘つた証だから、傷跡を見ても幸せだといつも話してくれていいるとのこと。素敵なお母さんですね。この本とお母さんが教えてくれたこと、大切にしていってください。

さよならのたからばこを読んで

花巻市立湯口小学校 四年

佐々木 結 奏

「ハイビスカスの花だ。かわいいな。」

この本の表紙には、ハイビスカスや海がめのイラストが書いてあります。私はフラダンスを習っていたので、ハイビスカスの花が大好きです。作者の長崎夏海さんは、鹿児島県の沖永良部島に住んでいます。調べたらあま美大島と沖縄県の真ん中にある島で、一年中気温があたたくく、サンゴしよや鍾乳洞がある自然豊かな島だそうです。この本を手にしたときに、南の島に旅行した気分になれたらいいなと思いつきながら、家に帰ってすぐに読み進めました。

島に住む小学二年生の美波という女の子は、明日島を出て東京に引っ越しをします。だけど美波がよく遊んでいた洋生という男の子が、おわかれ会に来なかつたので、会えないままさよならをするのはいやだと、洋生を探しに行つたところから美波の冒険が始まります。そして、洋生と島をめぐるながら、大事にしていききたい景色を見つけていくというお話です。

この本で気に入ったところは、美波の「からっぽは、すてきなものをいれるたからばこだつたんだよ。」という言葉です。東京に引っこすことで自分の心がからっぽになつてしまつたと感じた美波は、島のおじいちゃんやおばあちゃんや、洋生が見つけたお星さまみたいな青い石、さとうきび畑の倉庫の屋上から見えるあれた海などを心のたからばこに大切にしまふのを読んで、すてきな感じました。これから先の生活の中で、もしさみしくなつたりしたら、いつでも美波の背中を押してくれるようなたからものになるにちが

いありません。

また、「まはたきシャッターをきる。」という言葉もかわいらしくて気に入りました。たからばこにしまったために、しっかりと目にやきつけたピカピカに光るわたあめ雲は、美波の心の中をいつでも光らせてくれそうだなと感じました。

この本を読み終わつて、私の心のたからばこにも、たくさんのたからものが入つておることを思い出しました。お父さんと登山をした早ちね山のちよう上からの風景、夏の童話村できらきら光るオブジェの周りを弟と走つて遊んだこと、ミニバスの仲間たちと大つぶの汗を流しながら練習をしているときの真剣な目など、どれも私が大切にしている景色です。

今日という日は一度かぎりなので、これからもときめきを感じる景色を見つけたら、美波みたいにパシャッとまばたきシャッターを切つて心のたからばこを少しづつふやしていききたいです。その景色がきつと私の大切なお守りとなつて、前向きになれるような気持ちにしてくれると信じています。

（図書名『さよならのたからばこ』）

〈講 評〉

結奏さんが感じ取つた南の島のさわやかな風や素晴らしい景色がそのまま伝わつてきて温かい気持ちになる感想文です。

お気に入りの二つの言葉について、人物にとつてどんな意味があるのかもしつかり考えることができました。最後には二つの言葉を自分自身に重ね合わせて考えを深めています。

結奏さんのまばたきシャッターが、これからのように心のたからばこを増やしていくのか楽しみですね。

町の「いいもの」であるために

滝沢市立篠木小学校 六年

主 浜 彩 花

私は、あまり勉強が好きではなく、みんなでおもしろい事や走りまわったりして遊ぶのが好きな六年生だ。しかし、この物語の主人公、中学二年生の松林竹人は、いつも勉強をされていて、あまり友達とは遊ばないような人だった。私とは正反対だ。そんな彼でも、私と共通する点があった。それは、大事な時に勇気を出してものを言えない時がある事だ。

竹人は、「夜明けスコープオン」という不良グループ達に財布をとられてしまった時、どうしても「かえせ」と言う事ができなかった。それはきつと、勇気が出なかつたからだと思う。「もつと暴力をふるわれるかもしれない」「もうあきらめよう」と、竹人は考えたのだろう。その場面を私は、

「どうして『かえせ』のった三文字が言えないんだよ。」

と思つてじりじりしながら見ていた。そう思いながら、ふと思つた。「あれ、私も勇気を出してものを言えない事なんてたくさんあるじゃないか。」と。

例えば、私が五年生の時、六年生が下級生のことをいじめているのを何度か見たことがある。初めて現場を見た時は、勇気を出して「やめてあげて」と言う事ができた。結果、下級生の子は助かつたのだが、私が攻撃の対象となつてしまった。以後同じような場面に遭遇しても、その経験を恐れて、見て見ぬふりをしてしまつている。

しかし竹人は、クラスメイトのクラゲと関わつていくうちに、勇気を出して自分の意見を言えるようになった。それは、自分自身が

町の「いいもの」であることを誇りに思い、悪い事をして町に「わるもの」を恐れずに注意して、人を助けるクラゲに自然とひかれていったからなのだと思う。そして、クラゲの、自分の信念を貫き通す姿を見て尊敬しているのだと思う。

私もクラゲの事を尊敬する。竹人の奪われた「ほこり」を取り戻そうと、そしてこれ以上被害が出ないようにと全力でスコープオンを倒そうとしていた所、竹人だけでなく、竹人の兄、クラスメイトの三森の兄など「朝がエルズ」に関わつた人達を助けた所などだ。最後に竹人は、勇気を出してスコープオンに「かえせ」と言い、自分自身で「ほこり」を取り返すことができた。

私はこの物語を読んで、自分の信じた事は、誰になんと言われようとも貫き通すことの大切さを学んだ。私も、自分自身の信念を貫き通すクラゲや、自分自身で道を切り開く力を持つた竹人のような人になりたいと思つた。

本當の「いいもの」は、このような人達の事を言うのだろう。私も、「いいもの」を目指そう。

（図書名『カンフー&チキン』）

〈講 評〉

主人公がたくさん友達と関わりながら成長していく様子を、大麥丁寧に書くことができました。主人公と自分を比べ、似ているところに絞つて考えを深めたため、共感的に読むこともできましたね。自分の経験を具体的に書いてるので、説得力があります。

主人公の姿から、自分の信じたことを貫き、自分で道を切りひらくことの大切さを学んだ彩花さん。きつと勇気を出して、誰かのために頑張ることができると思います。

審査を終えて

令和四年度第七十七回夏休み良書推進運動読書感想文コンクールに、たくさん応募、ありがとうございます。応募数は、県内の小学校三十七校から、低学年十九点、中学年二十二点、高学年二十三点の合計六十四点でした。

どの作品も、子どもたちの素直で素敵な言葉で綴られたものばかりでした。今回の審査会で話題になったことを、次のようにまとめましたので、今後、読書感想文を書く際や、ご指導される際の参考にさせていただけたらと思います。

【低学年】

本を読み進める中で、自分の体験や経験と照らし合わせ、子どもらしい素直な表現で書き表されている作品が多くありました。自分がこの場にいたらどうするか、これからこんな場面に出会ったときはどうしていこうかなど、様々に考えながら読み進めていくことで、本に親しみ、読み味わっている様子が伝わってきました。

また、本を読んで新たに知った驚きや発見についても書かれてあり、素敵な本との出会いによって、新たな世界が広がっていったことが伺えました。

【中学年】

同じ本を読んでいても、共感する場面や惹きつけられる部分の様々で、それぞれの作品の良さがたくさんありました。登場人物に共感しながら読み進め、登場人物と一緒に悩んだり考えたりしながら、作品の世界を味わっている作品が多く、読みごたえがありました。

自分の体験や感じたことと作品がぴったりと合い、伝えたい言葉が次々と溢れ出てくるような作品もありました。力強い文体、その子らしい生き生きとした表現力のある作品に説得力があり、引きつけられました。

【高学年】

本を読んで感じたことを表現するほかに、主題に迫って深く追求する作品、自分の生活や世の中の様々な事象と照らし合わせて考察する作品など、読み応えがありました。本との出会いを通じて、新たな自分に気づくこと、そして考えが深まってきたことが伝わってきて、高学年らしさを感じました。

また、題名の付け方にそれぞれの作品の味が出ていました。本を読んで感じたり考えたりしたことを基に、言葉を選んで題名にすることで、作品の主題も明確になると思います。

【終わりに 次に生かしたいこと】

審査会で話題になることに、感想文の表記の仕方がありません。一つ目は、原稿用紙の使い方や枚数の規定を満たしていない点についてです。題名や名前の書き方や、促音や拗音をどのように表記するかなど、作品が仕上がった際にもう一度読み直し、確認してみてください。また、学年相当の規定枚数に達していない作品もありました。書き表したい思いや言葉を、言い換えたり膨らませたりしながら、ぜひ原稿用紙をたっぷり使って書いてみてください。

二つ目は、書きぶりについてです。選書の理由や心に残った場面についてなど、パターン化されているところが気になりました。この作品集にも、様々な書き出しや書きぶりが載っていますので、ぜひ参考にされて、様々な感想文の書き方に挑戦してみてください。

本と出会い、読み深め、自分と向き合うことのできる読書感想文への取り組みを通して、これからの皆さんの生活がますます豊かなものになっていくことを願っています。

審査員 谷藤 里佳

令和4年度 夏休み読書感想文コンクール応募者名簿

図書名「あしたのてんきははれ? くもり? あめ?」

(野坂勇作/作)

花泉 小 一年 酒井 杏梨 あしたのてんき
 黒沢尻東小 二年 鎌田 結衣 あしたのてんきはなかに?

図書名「よそんちの子」

(いとうみく/文)

高松 小 一年 長瀬 夕奈 なこちゃんとうたしのきもち
 鶴飼 小 二年 及川 紗弥 「よそんちの子」を読んで
 杜陵 小 二年 川上 璃音 よそんちの子を読んで

図書名「あおぞらこども食堂はじまります!」

(いとうみく/作)

滝沢 小 二年 藤波 里桃 ニコちゃんのことば
 永井 小 二年 土田 朝日 やさしさとおの子どもしよくどう

図書名「モンスター・ホテルでおばけやしき」

(柏葉幸子/作)

桜城 小 二年 真野 孝介 おばけはこわいぞ
 河北 小 二年 下川原 蓮 モンスター・ホテルでおばけやしき

図書名「くぬぎのもりのどきどきはつぴようかい」

(ふくざわゆみこ/作)

鬼柳 小 一年 阿部 友香 くぬぎのもりのどきどきはつぴようかい
 永井 小 二年 奥野 千雪 がんばりやのぐるりん
 本宮 小 二年 佐藤 羽紗 どきどきしたダンスのはつぴようかい

図書名「かぶとむしのぶんぶんちゃんうまれたよ!」

(ねもとまゆみ/作)

北厨川 小 二年 櫻田 悠悟 「すごいぞ、かぶと虫」
 上田 小 二年 小笠原遥希 かぶとむし
 滝沢第二小 二年 沼舘 陸 がんばれかぶと虫

図書名「ウサギのトリンはじめてのマラソンたいかい」

(高島じゅん子/作)

城南 小 一年 桐田 珠慈 トリンとマラソン
 厨川 小 二年 谷藤 葉那 がんばるってつらいけどたのしいよ
 大迫 小 二年 松坂 優凜 わたしもがんばるよ

図書名「みんなみんなすてきなからだ」

(タイラ・フェーダー/作)

滝沢第二小 二年 中村 空煌 みんなそれぞれちがったからだ